

# felissimo fund report

2010年度  
フェリシモ 基金活動報告書

{ 2010.3 - 2011.2 }

FELISSIMO

# 2010年度 フェリシモ基金活動のご報告

フェリシモ基金活動は、お客さまおひとりおひとりの善意を基金というかたちでお預りし運営しています。

たくさんのご参加、本当にありがとうございました。

感謝の気持ちとともに、ここに2010年度の全基金活動をご報告させていただきます。

はじめはひとりでも、小さなことも集まれば大きな夢の力になります。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

## 2010年度基金総額

2010年3月～2011年2月

みなさまからお寄せいただいた基金の収支をご報告します。

期首残高	¥	126,353,981	
収入	¥	70,750,589	
支出	¥	71,241,639	
期末残高	¥	125,862,931	(2011年2月末現在)

毎月一口100円の寄付による参加をいただき、集まった基金で、国内外での森づくりを進めています。

2010年度は、お客さまから13,201,768円をお預かりし、国内外の森づくりに18,756,956円を拠出しました。

37番目のフェリシモの森は、神奈川県横須賀市に誕生しました。土地本来の常緑広葉樹を中心にした混植・密植方式の植樹を協働参加型によって行われました。2010年11月の植樹祭では、フェリシモの森基金に参加されているお客さまにもフェリシモの森活部のメンバーとして参加いただき、シイ、タブ、カシなど22種類6,000本の苗木が植えられました。



子どもから大人まで参加



1本1本、丁寧に植樹されていきます



フェリシモの森活部から105名が参加

38番目のフェリシモの森は、沖縄県宮古島市に誕生しました。水資源確保、自然環境改善・保護活動への意識の啓蒙を目的としたこの森づくりでは、タブノキ、シャリンバイ、グアバ、イヌマキ、クロヨナ、テリハボク6種類の350本の苗木が植えられました。2011年2月に行われた植樹にはフェリシモの森活部から10名が参加しました。



植樹した干潟は、満潮時には膝位まで海面になるとのこと



植樹風景



フェリシモの森活部から10名が参加

毎月一口100円の寄付による参加をいただき、集まった基金で貧困からの自立、自然災害

などからの救済、復興の応援など、世界各地で進められている活動を支援します。

2010年度は、お客さまから11,048,670円をお預かりし、次の18事業に総額10,895,000円を拠出しました。

2010年1月12日にハイチの首都ポルトープランスの南西15km地点を震源とするM7.0の大規模地震が発生しました。地震により、23万人が犠牲となり、30万人が負傷し、数十万人が家を失っていました。緊急医療支援を迅速に進めるため、日本からの緊急医療支援チームの派遣、医療ニーズ調査、可能な限りの医療活動の実施を支援しました。(助成団体: AMDA)

2010年1月12日にハイチで発生した大規模地震の緊急支援として、医療活動・救済物資の調達、テント病院の設置に関連する費用、治療キット、薬剤、生活物資の提供ならびに外科医・腎臓の専門家・看護師・心理療養士などのスタッフ派遣を支援しました。(助成団体: 国境なき医師団日本)

2010年2月27日チリ中部を震源としたマグニチュード(M)8.8の大地震が発生しました。この震災の緊急支援として、震源地から近く、被害の大きかった3地域、ビオビオ州コンセプション県及びニューブレ県、マウレ州タルカ県にて500世帯の被災者家族を対象に、食料セット、水、生活用品(テント、マットレス、ベトリネン、毛布など)の配布を行いました。(助成団体: ADRA Japan)

1月12日にハイチで発生した大地震により、120万人以上が家を失い、50万人以上がテント生活を余儀なく強いられました。雨季を迎えるハイチに紙管製仮設シェルター50軒の建設費用を支援しました。(助成団体: ボランタリー建築家機構)

カンボジア首都プノンペンにあるトロピエンスバイ公立小学校の虫歯予防・健康診断事業を支援しました。この学校には、貧困家庭の子どもの多くが通っています。病院に行く余裕のない家庭にとって、学校で診てもらえることは大きな支えです。保護者たちはとても嬉しそうでした。5才児から6年生までの約500人のうち、64%の子どもの虫歯が見つかり治療を行いました。健康診断では、74%の子どもの薬が処方されました。気管支炎や下痢などが主な病気です。この活動は、「子どもの健康に関心を持つ」という保護者や先生の意識を変えさせるきっかけになりました。(助成団体: 幼い難民を考える会)

ミャンマーのカレン族の難民キャンプで図書館建設を支援しました。難民キャンプでは、民族間、世代間、ジェンダー間の融和を促進するために、「平和構築」、「平和教育」の要素を取り入れ、平和な心を育てていく活動も行っています。図書館は、難民キャンプに暮らす人々の心の拠り所として、子どもだけではなく、大人、高齢者にも利用され、地域のなかで「本を読む場所」にとどまらず、「より一層、民族、宗教、性別などに関わらず全ての人々に開かれた教育の場」「難民たちが持つ伝統的な文化を継承する場」として活用されています。(助成団体: シャンティ国際ボランティア会)



絵本の読み聞かせをしている様子 ©川畑嘉文

ミャンマー北シャン州コーカン自治地域中部に住む妊婦を対象に、妊産婦健診を奨励するためのアドボカシーミーティングの開催、視覚に訴える分かりやすいパンフレットの作成、妊産婦健診を奨励する公衆衛生キットの配布活動を支援しました。元気な赤ちゃんを産むためには妊娠と出産に関する正しい知識を持つことが大切であることを地域の母親たちに伝えるだけでなく、行政にも働きかけ、妊産婦健診を促進する体制を作る一助となりました。それと同時に公衆衛生観念の向上と予防に貢献しました。(助成団体: AMDA 社会開発機構)

ホンジュラスにある築30年のフティアバ保健所は雨漏りが見られ、天井の梁に漆え木をして崩壊を防いでいました。そのため、患者さんが安心して受診できるよう保健所の屋根と天井の改修を支援しました。改修工事では、自分たちの保健所のために住民がボランティアとして参加しました。このプロジェクトに触発された地域住民は、計画にはなかった家庭から支援資金を集め、保健所別棟の老朽化した屋根の改修をすすめました。また、保健所では健康フェアを開催し、受診以外でも住民が集まる機会を作り、巡回診療や健康相談で保健所の利用促進も行っています。このプロジェクトがきっかけとなり、地域住民も巻き込んだ保健所の維持管理体制が出来つつあります。(助成団体: AMDA 社会開発機構)

2010年8月から2011年4月の9ヶ月間、タジキスタン共和国首都ドゥシャンベで、障害者及びその家族31名へ洋裁コースの運営支援ならびにミシンの提供を行いました。コース受講者は、初級者グループ16名と上級者グループ15名に分かれて授業を受け、裁縫道具や機材の使用法をはじめ伝統服や洋服作成の基礎理論を習得しました。このプロジェクトが終了した後、一般用ミシン1台を生徒が290名在籍するヒッサール障害児寄宿学校に供与しました。供与したミシンは、中学年以上を対象とした職業訓練の洋裁クラスで活用されています。(助成団体: 難民を助ける会)



洋裁コースを受講している様子 ©難民を助ける会

コンゴ民主共和国タンガニカ地域において、世界の医療団が進める「保健医療システム支援および強化ミッション」に医薬品ならびに医療機器を提供しました。妊婦や乳幼児の死亡率の低下や感染症予防などを推進するため、医療サービスへのアクセスを妨げる諸問題の解決を含め質の高い医療サービスにアクセスできるよう、多面的な支援となりました。(助成団体: 世界の医療団)

2010年8月、バキスタン史上最大の被害をもたらした洪水に際し、被災者への緊急支援として、特に被害が甚大であったハイバル・パフトゥン・クワフゾシェラ郡において、家が全壊した世帯、子ども的人数が多い世帯、女性が世帯主の世帯、妊婦のいる世帯、病人を抱えている世帯など、被災者の中でも特に脆弱な状況に置かれた世帯に、避難生活や帰還後の生活に最低限必要な物資(衛生用品、台所用用品、水タンク、蚊帳、床用プラスチックマット、ショールなどのセット)を配布しました。(助成団体: ケア・インターナショナル ジャパン)

ミャンマーのパコク郡の2村において「健康な村」を実現するための基金の設立と運用を支援しました。それぞれの村が考える「健康な村」の定義は村によって異なるため、基金の内容も、「健康でいるためには教育が必要」と考えた村では「教育基金」の設立を、「健康の維持・促進のためには食料を買うお金が必要」と考えた村では、生計向上のための「農業基金」の設立をしました。基金の目的・利用方法・管理者・情報公開方法など基金運営について協議し、適切に基金を運営するための基金管理研修を行い、帳簿の記載方法や資金管理方法などについて学びました。(助成団体: AMDA 社会開発機構)

カンボジアの女性たちの経済的自立を目指して、60人の女性たちを対象とした伝統織物の技術指導プロジェクトを支援しました。自然な風合いで優しいぬもりが溢れる手織り布は、縫製され、日本でも販売し、収益を女性たちに還元しています。手に職をつけた女性たちは、安定した収入を得ることで家族の生活を支え、モノを作り出す創造の喜びが、女性たちの誇りにもつながりました。(助成団体: 幼い難民を考える会)



織物技術指導を受ける女性たち ©幼い難民を助ける会

貧富の格差が広がるカンボジアにおいて、幼児期の子どものたちが安心して過ごせるように、バンキアン保育所、プレイタウ保育所の自立を支えるプロジェクトを支援しました。将来は日本の援助に頼らずに、カンボジアの人々による自主運営することを目指して、先生の育成や、教材・給食の提供、保護者への啓蒙活動などを続けてきました。今回の支援では、約110人の子どもたちが、毎日給食を食べて元気に通うことができました。また、栄養ワークショップを通して保護者の教育に対する意識も向上しました。(助成団体: 幼い難民を考える会)



給食を口にする子どもたち ©幼い難民を助ける会

2011年3月中旬から2011年8月中旬の5ヵ月間、タジキスタン共和国首都ドゥシャンベで、障害者及びその家族へ、職業訓練コースの運営を支援しました。2011年6月末現在、裁縫コース21名、調理コース22名、菜園コース16名の障害者及びその家族が、週1回ずつそれぞれのコースを受講しました。裁縫コースでは、基礎的な裁縫技術から伝統服の作成までを教えました。調理コースでは、伝統料理、サラダ、菓子の3種類について、週ごとに新しいレシピを学びました。菜園コースでは、花植え等の園芸活動や温室栽培での野菜栽培等を行いました。職業訓練等の教育の機会に恵まれない障害者が依然として多いという背景もあり、この職業訓練は障害者に新しい知識や技術の習得の機会だけでなく、当事者同士の情報交換の場も提供しています。(助成団体: 難民を助ける会)

ミャンマーのサイクロン被災地における障害者を対象に、80名の障害児の普通学校通学支援、41名の障害者に補助具の供与、障害者のいる17世帯への生計支援を行いました。障害児をもつ家庭の多くは貧しく、文房具を購入することが難しかったため、6月からの新学期にあわせて、就学年齢の障害児に文房具を供与しました。また、車いすや義足などの補助具を提供された障害者は、行動範囲が広がり、友だちを訪ねたり、学校へ行ったり、自助団体や地域の社会活動に参加し始めています。ヤギを供与した世帯では、定期的な収入が見込めるようになりました。(助成団体: 難民を助ける会)

スーダンでは、1956年の独立以来2005年に至るまで、南北間で内戦が続けられ、犠牲者は200万人にのぼるとされています。その中でも、南コルドファン州は、南北両勢力が激しい戦いを繰り返してまいりました。内戦終結後は南北両政府の共同統治地域とされ、避難民の帰還がすすめられましたが、村に残ったのは、破壊された井戸や道路とやせた土地でした。そのため、再定住のための整備を支援しました。手始めに、住民と村を歩いてそこにあるものを再発見する「村歩き」を繰り返し、相互扶助の仕組み、伝統の知恵や技術、資源となる植物を再発見し、記録すると同時に、村の復興を脅かす課題を住民と一緒に解決する方法を議論し、再発見された事物を村の人と振り返るワークショップを開催することが出来ました。(助成団体: 日本国際ボランティアセンター)

2010年1月12日にハイチで起きた地震により、被災地にある4,992校の学校の内、約80%にのぼる3,978校の校舎が全壊・半壊し、55,793人の教育関係者が被害を受けました。そのため、ポルトープランス市および周辺にある被災した学校を再開し、子どもたちの教育環境を整えるために、学校施設(5校)のトイレの建設を支援しました。(助成団体: ピースウィンズ・ジャパン)

## フェリシモ 日本伝統生活文化基金

毎月一口100円の寄付による参加をいただき、集まった基金で、日本の生活に宿る伝統文化の保護と継承を支援しています。

2010年度は、お客さまから920,300円をお預かりしました。  
お預かりした基金は、**簾庵（ちいおり）**トラストの日本伝統生活を守る活動に役立てられます。

徳島県三好市東祖谷（いや）にある築三百年の「簾庵（ちいおり）」は、1973年から約13年アレックス・カーさんが多くの人々の協力を得ながら修復を進めた古民家です。  
日本伝統生活文化基金は、「簾庵（ちいおり）」の茅葺（かやぶ）き屋根の修復を支援します。



©ちいおりトラスト  
「簾庵（ちいおり）」は角地に残る日本の美しい暮らしを守り、高める活動の拠点になっています。



©ちいおりトラスト  
茅葺（かやぶ）き屋根の修復には材料集めから、山に植生するスキを刈り取ります。



©ちいおりトラスト  
総葺き替えには2,000束のスキが必要ですが、多くの人の協力が未来へとつながります。

アレックス・カー/Alex Kerr

1952年アメリカ生まれ。64年に初来日し、横浜に2年間在住後、帰国。エール大学で日文学、オックスフォード大学で中国学を専攻。71年にヒッチハイクで日本一週の旅を敢行中に茅葺（かやぶ）き民家に出会い、73年にその再生活動を始める。現在は主に京都とタイ・バンコクを拠点とし、日本と東アジアの美術館蒐集（しゅうしゅう）、文化および環境改善のコンサルタント、執筆、講演、通訳など多方面で活躍。94年「美しい日本の残像」で新潮学芸賞受賞。近著は現代日本の問題の根源に迫る『犬と鬼』。

12のプロジェクトから支援先を選んでチケット（HAPPY CAPS チャリティーチケット）を購入いただき、チケット代金の全額を寄付しています。

2010年度は、お客さまから11,164,200円をお預かりしました。  
お預かりした基金は、次の12のプロジェクトに全額を拠出します。

### 【環境保全】

住民参加による地域住民の主体的な緑化活動を重視して、村単位での環境教育や苗木の育成、地域にあわせた植林の実施ならびに地区の管理、そしてこれらの活動を通じた雇用の創出を行う活動を支援します。  
（助成団体：タゴール協会）

### 【健康支援】

開発途上国において、貧困の軽減、社会の発展、平和の構築に寄与することを目的に、貧困からの脱出を願う人々と共に、農村や都市スラムで、地域保健や貧困削減に関連した活動を支援します。  
（助成団体：AMDA社会開発機構）

### 【教育支援】

すべての子どもにとって、生きる・育つ・守られる・参加する「子どもの権利」が実現されている世界を目指し、避難民・帰還民への支援や、子どもの学習環境、衛生環境の改善事業を支援します。  
（助成団体：セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン）

### 【自立支援】

開発途上国において、貧困の軽減、社会の発展、平和の構築に寄与することを目的に、貧困からの脱出を願う人々と共に、農村や都市スラムで、地域保健や貧困削減に関連した活動を支援します。  
（助成団体：難民を助ける会）

### 【子ども支援】

「食いから学校に行けない、学校に行けないから食い」という悪循環を断絶するため、生徒たちが教育を受けられるよう、生活費や学費、文房具の提供などを支援します。  
（助成団体：涼山州農村教育協会）

### 【平和創造】

今も続く地雷被害の実態を人々に知らせるとともに、地雷廃絶に向けた活動と被害者支援を実践することを目的に、講演会の実施、地雷撤去活動支援や地雷被害者への救済活動などを支援します。  
（助成団体：カンボジア地雷撤去キャンペーン）

### 【伝統文化支援】

援助が届いていない遠隔地の村落に住む人々が、貧困で苦むことなく、しあわせに生活が営めるよう、現地の現金収入の元となる工芸品の職人への技術力の向上支援や医療サービスの提供を支援します。  
（助成団体：タラヤナ財団）

### 【介護支援】

介護する人への直接的なケアやサポートの仕組みづくり、孤立しがちな介護者を社会へつなぐ仕組みづくりを考え、心のオアシス（電話相談）事業、訪問相談員の派遣事業などの活動を支援します。  
（助成団体：介護者サポートネットワークセンター・アラジン）

### 【障がい者支援】

盲導犬の普及を全国的に推進し、視覚障害者の自立と社会参加に貢献することを目的に、訓練士、歩行指導員の資格認定事業、盲導犬受入促進のための活動を支援します。  
（助成団体：全国盲導犬施設連合会）

### 【リサイクル支援】

世界各地の難民や避難民、被災者などを支援することを目的として、衣料品収集活動、海外輸送費募金活動、衣料品寄贈活動を支援します。  
（助成団体：日本救援衣料センター）

### 【動物保護支援】

行き場のなくなった動物のケアや治療、新しい飼い主さんの募集活動を支援します。  
（助成団体：日本アニマルトラスト）

### 【緊急支援】

予測不能な災害に対し、被災した人びとの命と希望をつなぐ活動を支援します。  
（助成団体：災害の種類、発生地に応じて支援団体を決定します。）

## Happy Caps チャリティーチケット

## トリビュート21基金

### TOTAL

トリビュート21基金は、1996年のスタート以来累計で1億円を超え、ユネスコ本部をはじめ118の団体に寄付しました。

\*トリビュート21プレートは、ウェブサイトにてお申し込みいただけます。  
<http://www.felissimo.co.jp/t21/>

## アルモンド基金

### TOTAL

アルモンド基金は、2007年のスタート以来、累計で2,210万円を超え、ユネスコ本部をはじめ、10の団体の活動を支援することができました。

## haco. ピース・バイ・ピース コットン基金

### TOTAL

haco.ピース・バイ・ピースコットン基金は、2009年のスタート以来累計で1,110万円を超え、農村の自立支援、子どもたちの教育支援に活用されています。

## フェリシモ子ども基金

### TOTAL

NUSY ラブ&ピースシリーズを含むフェリシモ子ども基金は、2001年のスタート以来累計で6,010万円を超え、世界各地の子どもたちを支援しています。

## フェリシモ アクティビティーズ

### TOTAL

フェリシモアクティビティーズによる基金は、スタート以来累計で、2,830万円を超え開発途上国の生産者の自立支援や子どもたちの支援に活用されています。

「世界の子どもたちにしあわせを贈るプレート」として各界で活躍する著名人や一般公募によって選ばれたお客さまがデザインしたトリビュート21プレートや関連商品を基金付きで販売しています。

**TRIBUTE 21**

2010年度は、お客さまから619,190円をお預かりし、ユネスコ本部に2,067,287円を拠出しました。

拠出した基金は、開発途上国の子どもたちを対象にした教育プログラム DREAM Center（ドリームセンター）の活動に活用されます。

デザインで世界をしあわせに導く……フェリシモとユネスコ共催のオンラインコミュニティ「DESIGN21: ソーシャルデザインネットワーク」から生まれたチャリティーリングシリーズを基金付きで販売しています。



2010年度は、お客さまから843,413円を9団体に総額1,519,034円を拠出しました。

難民を助ける会ならびにThe Halo Trustへ寄付し、地雷除去活動や地雷回避のための教育活動を支援しています。

全国盲導犬施設連合会に寄付し、視覚障害を持った方を安全に快適に誘導する盲導犬の育成を行う8カ所の公認施設を支援しています。

メイク・ア・ウィッシュ・オブ・ジャパンに寄付し、難病と闘う国内の子どもたちの夢の実現を支援しています。

タゴール協会に寄付し、インドの西ベンガル州、オリッサ州、ジャルカント州の砂漠化した地域での住民参加の森づくりを支援しています。

ハンガー・フリー・ワールドに寄付し、西アフリカの国、ブルキナファソで、5歳以上の子どもたちの給食を提供する活動を支援しています。

骨髄移植推進財団に寄付し、より多くのドナー登録を募るための骨髄バンクの広報活動を支援しています。

綿花栽培で衰弱した土地を救い、未来の子供たちに元気な大地を残すために始動したプロジェクトです。インド産オーガニックコットンから作られる製品に基金をつけて販売し、集まった基金をインドでオーガニックコットン栽培を通じた農村の自立支援、子供たちの教育支援などの活動に寄付します。

2010年度は、お客さまから6,512,790円をお預かりしました。  
お預かりした基金のうち、FORUM FOR INTEGRATED DEVELOPMENTに総額3,000,000円を拠出しました。

\*haco.ピース・バイ・ピース コットン基金の活用レポートはウェブサイトにてご案内しています。  
ぜひ、ウェブサイトをご確認ください。  
<http://www.felissimo.co.jp/s/peace31/1/>

2001年に起きた米国同時多発テロ事件をきっかけに、子供たちにしあわせな未来を残そうとメッセージを発信して基金もできる「nusy ラブ&ピースメッセージTシャツ」を発売し、集まった基金を世界の子供たちのための活動に寄付しています。



2010年度は、お客さまから2,714,500円をお預かりしました。

お預かりした基金は、日本ユネスコ協会連盟のアフガニスタンの子どもたちの教育支援に活用されます。

\*NUSY ラブ&ピースシリーズは、ウェブサイトにてお申し込みいただけます。  
<http://www.felissimo.co.jp/nusy/nusy911/>

**LOVE AND PEACE  
FOR CHILDREN  
FOR ALL OVER THE WORLD**

カタログ『みんなの地球村』に掲載のフェリシモ アクティビティーズの商品の一部を基金付きで販売しています。



2010年度は、お客さまから2,000,907円をお預かりしました。  
お預かりした基金のうち、次の3事業に総額2,822,731円を拠出しました。

ザ・チルドレン・オブ・セブファンデーションに寄付し、フィリピン・セブ島のストリートチルドレンとなった子どもたちの衣食住、教育、医療などの総合的な支援に活用されています。

ユネスコ寺小屋基金として、日本ユネスコ協会連盟へ寄付し、読み書きできない子どもや大人への識字教育を支援します。  
ADEHPRIに寄付し、ペルーの貧困地域の農民への技術指導や栄養指導などの自立を支援します。

## mama.f スマイリー基金

TOTAL  
mama.f スマイリー基金は、2003年のスタート以来累計で1,440万円を超え、世界10カ国で子どもたちを支援することができました。

子どもを持つプランナーmama.fの「世界中すべての子どもたちが健康で、楽しい毎日が過ごせるように」という思いから、基金付きで商品を販売しています。

2010年度は、お客さまから153,372円をお預かりしました。  
お預かりした基金のうち、次の3事業に総額1,000,000円を拠出しました。

20年以上続いた内戦により、子どもたちの半数が慢性的な栄養失調に苦しむカンボジアの子どもたちに「幼い難民を考える会」を通じて10円給食活動を支援します。

インドの子どもたちに「ACE（エース）」を通じて直接子どもたちを児童労働から保護、予防し、教育が受けられるようにする取り組みを行う「子どもにやさしい村プロジェクト」を支援します。

フィリピンのマニラ首都圏でのストリートチルドレンをはじめとする恵まれない青少年たちに「国境なき子供たち」を通じて自立支援施設「若者の家」における安定した衣食住と教育訓練を支援します。



「あなたが贈るお花が世界で植えられる植物とつながりますように」という願いをこめて、カタログ『しあわせの母の日』に掲載の商品をはじめ、お花・植物を基金付きとして販売し、集まった基金で世界の植林活動を支援しています。

2010年度は、お客さまから1,069,946円をお預かりしました。  
お預かりした基金のうち、1,217,298円をタゴール協会の「インドの森づくり」事業に拠出しました。

「木でできた鈴 MOKURIN（もくりん）しづくストラップの会」を基金付きで販売、集まった基金で広葉樹の森づくりを進めています。

2010年度は、お客さまから557,323円をお預かりし、お預かりした基金のうち、ドングリの会に総額688,646円を拠出しました。

富山県神通川の源流にあたる高山市や飛騨市の山中で、「MOKURIN」に使用しているナラ・トチ・エンジュ・ケヤキなどを植樹しました。毎年、加工となる富山湾の漁師さんも参加して植樹が行われています。また、2011年6月にはみんなの森活部も植樹に参加して「MOKURINの森づくり」が実施されました。「MOKURIN」を応援してくださった方々と共に森づくりが進められています。



子どもから大人まで約40人が参加しました。



植える苗木にメッセージを書き込んだりボンを結びます。  
"元気な森になりますように"の願いを込めて。



約1時間半をかけて、100本以上の木を植えました。

## その他 基金付き商品の 販売による基金

奄美大島の集中豪雨災害の被災者に対し、奄美市役所へ2,000,000円を100円義援金から拠出しました。

Design for future 基金より、UNESCO本部へ1,713,560円を拠出しました。拠出した基金は、発展途上国の子どもたちを対象にした教育プログラムDREAM Center（ドリームセンター）の活動に活用されます。

キャンディフォーチルドレン基金からAMDA社会開発機構へ665,847円を拠出しました。拠出した基金は、ザンビアのスラムに住み、食料不足や病気で闘いながら生活している子どもたちの栄養補給に活用されます。

ピンクリボン基金から日本対がん協会（ほほえみ基金）に328,322円を拠出しました。拠出した基金は、乳がんで亡くなる女性を少しでも減らす「ピンクリボン運動」に活用されます。

ラブ&サンクス基金からAMDA社会開発機構へ259,517円を拠出しました。拠出した基金はザンビアの子どもたちへの支援に活用されます。

We Love It. 基金から169,200円を拠出しました。拠出した基金は日本ユネスコ協会連盟の寺子屋運動の支援に活用されます。

株主優待ハッピーサンタクロースから84,000円をACE（エース）に拠出しました。拠出した基金は、インドの子どもにやさしい村プロジェクトへの支援に活用されます。

その他の基金付きの商品の販売により集まった基金35,441円については、以下の7団体へ拠出しました。  
タゴール協会、あしなが育英会、AMDA社会開発機構、ドイツ国際平和村、難民を助ける会、日本ユネスコ協会、ユネスコ本部

## メリーで社会貢献

TOTAL  
メリーで社会貢献は、2002年のスタート以来累計で1.1億円を超え、それぞれの活動を支援することができました。

\*メリーで社会貢献は、フェリシモコレクションのお買い物で贈りする「フェリシモメリー（merry）」にてお引き換えいただくことができます。

フェリシモが発行するお買い物ポイント“フェリシモメリー”でプレゼントを選ぶ代わりに、社会性ある活動に寄付するプログラムです。集まったメリーの相当額をそれぞれの活動に寄付しています。



2010年度は、お客さまから15,190,260円をお預かりし、次の事業に総額22,824,150円を拠出しました。

「盲導犬育成支援」では、全国盲導犬施設連合会を通じて、全国の8カ所の盲導犬育成施設に寄付しました。それぞれの施設で盲導犬の育成や活動の啓蒙、また、引退した盲導犬たちの支援に活用されます。

「紛争地域のごどもたちへの医療活動支援」では、ドイツ国際平和村に寄付しました。紛争地域など海外から受け入れた子どもたちを治療したり、現地での医療支援を行いました。

「ブルキナファソのごどもたちへの栄養改善事業支援」では、ハンガー・フリー・ワールドに寄付しました。西アフリカの国、ブルキナファソの乳幼児妊産婦栄養改善事業に活用されます。

「地雷廃絶活動支援」では、難民を助ける会に寄付しました。地雷回避教育ならびに地雷被害者への自立支援活動に活用されます。また、基金の一部は、イギリスの地雷除去活動専門NGO The Halo Trustを通じて、地雷除去活動に活用されます。

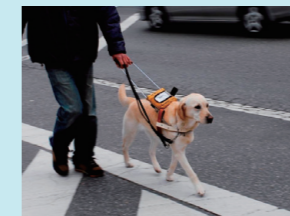
「自然環境の保全と野生動物の保護活動支援」では、WWFジャパンに寄付しました。森や海などの生物多様性の保全、木材や魚介類など、自然資源の利用を持続可能なものにする活動、地球温暖化を防ぐ活動に活用されます。

「HIV（ヒト免疫不全ウイルス）/AIDS（エイズ）対策活動支援」では、国境なき医師団日本、日本国際ボランティアセンター、AMDA社会開発機構に寄付しました。開発途上国の人々へのエイズの治療薬の提供、南米でのエイズ予防のための教育プログラム、南アフリカのエイズ感染者への生活支援に活用されます。

「国内の難病のごどもの夢をかなえる活動支援」では、メイク・ア・ウィッシュ・オブ・ジャパンに寄付しました。手づくりで、ひとりひとり違う子どもたちの夢をかなえる活動に活用されます。

「動物たちの保護と飼い主支援」では、国内の17の団体にに対して寄付しました。無責任な飼い主に捨てられ、保健所などで処分されそうになる動物たちを保護し、新たな飼い主を探す活動に活用されます。

「国内医療支援」では、骨髄移植推進財団、日本さい帯血バンクネットワークに寄付しました。白血病などの血液難病に苦しむ患者を救うため、その活動を広く社会に普及する事業に活用されます。



©全国盲導犬施設連合会  
訓練を受ける盲導犬



©ドイツ国際平和村  
ルワンダの子どもたち



©難民を助ける会  
地雷回避教育の様子

## 神戸学校

TOTAL  
神戸学校の参加料による寄付は、2000年の基金スタート以来累計で1,100万円を超え、これまでに桃育英会ならびにあしなが育英会神戸レインボーハウスに寄付することができました。

\*神戸学校は毎月開催しています。最新情報はウェブサイトにてご確認ください。  
<http://www.felissimo.co.jp/kobe/>

## フェリシモ ハッピートイズ プロジェクト

TOTAL  
フェリシモハッピートイズプロジェクトでは、1997年のスタート以来、35,000個を超えるハッピートイズが誕生し、日本を含む33カ国の子どもたちへ寄贈しています。



毎月1回、テーマにふさわしいゲストを神戸にお招きしてレクチャーやワークショップを開催する神戸学校は、集まった参加料の全額を寄付しています。

2010年度は、お客さまから902,450円をお預かりしました。  
お預かりした基金のうち、総額1,194,650円をあしなが育英会神戸レインボーハウスに拠出しました。

2010年度、神戸学校は全12回開催しました。

2010年度ゲスト

- ・ 豊 豊さん（兵庫県立美術館 館長）
- ・ 古市 忠夫さん（PGA認定プロゴルファー）
- ・ 榎岡 かずおさん（漫画家）
- ・ 小山 薫堂さん（放送作家・脚本家）
- ・ 長谷川 眞理子さん（進化生物学者）
- ・ 松本 修さん（朝日放送プロデューサー）
- ・ 結城 昌子さん（アートディレクター・エッセイスト）
- ・ 須藤 元気さん（作家・元総合格闘家）
- ・ 森田 雄三さん（演出家）
- ・ 西水 美恵子さん（前世界銀行副総裁）
- ・ 松浦 弥太郎さん（『暮しの手帖』編集長・文筆家・書店店主）
- ・ 西 加奈子さん（作家）

全国のお客さまに思い出の布や毛糸を使って毎年新しいテーマとともに発表されるキャラクターぬいぐるみ“ハッピートイズ”を手づくりしていただくプロジェクト。誕生したハッピートイズは笑顔の親善大使として国内外の子どもたちに寄贈しています。

2010年度は、計2,514個のハッピートイズを国内外の子どもたちに寄贈しました。  
(2010年3月1日～2011年2月28日現在)

<寄贈先>

- ジブチの子どもたちへ（協力団体：AMDA社会開発機構）
- ザンビアの子どもたちへ（協力団体：AMDA社会開発機構）
- フィリピンの子どもたちへ（協力団体：国境なき子どもたち）
- 日本の子どもたちへ（協力団体：神戸少年の町乳児院、御影乳児院）



©国境なき子どもたち  
ハッピートイズを手にするフィリピンの子どもたち

\*フェリシモハッピートイズプロジェクトの情報はウェブサイトにてご案内しています。なお、新しいキャラクターは毎年初夏に発表しています。最新情報はウェブサイトをご確認ください。  
<http://www.felissimo.co.jp/toys/>

## フェリシモ 基金活動について

本報告書に記載しています活動は、  
お客さま、お取引先さま、株主のみなさま、従業員、現地で活動を行う団体、個人など  
活動に関わるすべての人々によって支えられています。  
本当にありがとうございます。  
ひとりひとりの力は小さくても、それぞれの思いを重ねることで、  
たくさんの夢を実現しています。  
これからも、みなさまの思いを生かした活動を展開していきたいと考えています。  
なおフェリシモでは、おひとりおひとりのお気持ちを  
「全額、直接的な支援活動に生かす」を原則とし、報告書発行などの  
広報活動や基金事務局の運営費用等はフェリシモが負担しています。  
今後ともどうぞよろしく願いいたします。

## ご意見・ご提案について

フェリシモの基金活動についてのご意見、ご提案をお寄せください。  
<http://www.felissimo.co.jp/otayori/>

## 2010年度 基金拠出先一覧

すべての基金の拠出先です。  
2010年度は、国内外の46団体の活動を支援しました。

あしなが育英会  
特定非営利活動法人ADRA Japan  
特定非営利活動法人アニマルレフュージ関西  
奄美市  
特定非営利活動法人AMDA  
特定非営利活動法人AMDA社会開発機構  
特定非営利活動法人犬と猫のためのライフポート  
認定NPO法人ACE  
認定非営利活動法人幼い難民を考える会  
特定非営利活動法人北九州ノアハウス  
公益財団法人ケア・インターナショナル ジャパン  
認定特定非営利活動法人国境なき医師団日本  
特定非営利活動法人国境なき子どもたち  
財団法人骨髄移植推進財団  
社団法人シャンティ国際ボランティア会  
認定NPO法人全国盲導犬施設連合会

タゴール協会  
財団法人WWFジャパン  
ドイツ国際平和村  
動物いのちの会いわて  
特定非営利活動法人動物たちを守る会ケルビム  
どうぶつ福祉の会AWS  
特定非営利活動法人トータル・サポート  
特定非営利活動法人ドングリの会  
認定特定非営利活動法人難民を助ける会  
認定特定非営利活動法人日本アニマルトラスト  
特定非営利活動法人日本国際ボランティアセンター  
日本さい帯血バンクネットワーク  
財団法人日本対がん協会（ほほえみ基金）  
特定非営利活動法人日本動物生命尊重の会  
日本ドッグホーム協会

社団法人日本ユネスコ協会連盟  
人と犬猫との共生を考える ハッピーテール  
特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド  
PAK保健所の犬・猫を救う会  
特定非営利活動法人ピース・ウィンズ・ジャパン  
150匹犬猫ボランティア  
特定非営利活動法人V. O. V  
Forum for Integrated Development  
特定非営利活動法人保健所の成犬・猫の譲渡を推進する会  
あいがん動物を守HOKKAIDO「しっぽの会」  
ボランティア建築家機構  
特定非営利活動法人みやざき動物のいのちを守る会  
メイク・ア・ウィッシュ・オブ・ジャパン  
特定非営利活動法人メドウサン・デュ・モンド ジャポン  
ユネスコ本部

- \* 報告書本文中では、法人格を省略して紹介させて  
いただきました。
- \* 団体名称は、基金拠出時のものです。

## フェリシモ基金活動ページ

本報告書は、2011年6月現在の情報をもとに作成しています。本報告書は、ウェブサイト上でPDFデータでもご覧いただけます。

<http://www.felissimo.co.jp/kikin/>

2010年度  
フェリシモ基金活動報告書

発行元：フェリシモ基金事務局  
株式会社フェリシモ内  
〒650-0035 神戸市中央区浪花町59番地  
TEL. 078-325-5762（平日9：30～17：00）  
FAX. 0120-055-827  
発行：2012年7月

ともにしあわせになるしあわせ

